



日本植物分類学会 ニュースレター

No. 30

Aug. 2008

目 次

谷元峰男会員ご逝去のお知らせ.....	2
会長および評議員選挙公示.....	2
諸報告.....	3
庶務報告（2008年5月～7月）.....	3
お知らせ.....	3
第8回（2008年度）日本植物分類学会賞 （学会賞および奨励賞）の受賞候補者の募集.....	3
2008年度野外研修会のお知らせ.....	4
評議員会開催のお知らせ.....	6
植物分類学関連学会連絡会共催シンポジウム 「2007年植物レッドリストからみえる保全生物学的課題」のご案内.....	6
日本分類学会連合の企画によるシンポジウムのご案内.....	7
2008年度日本植物分類学会講演会のお知らせ.....	7
日本植物分類学会第8会大会（2009年）のお知らせ.....	8
第9回大会開催地の募集.....	8
研究費助成公募等のお知らせ.....	9
書評依頼図書.....	9
本の紹介.....	10
千葉県立中央博物館編「リンネと博物学—自然誌科学の源流—（増補改訂）」.....	10
いきもの便り.....	11
結局、「チャワソタケです」.....	11
フィールドワーク万歳！.....	12
日本植物分類学会選挙人名簿（2008年7月現在）.....	13
会員消息.....	24

谷元峰男会員ご逝去のお知らせ

会長 邑田 仁

本会名誉会員谷元峰男様は 2008 年 5 月 26 日に逝去されました。最近まで野外研修会等にも参加され、お元気に活動されておられました。長年にわたる会員としてのご功績を偲び、ご冥福をお祈り申し上げます。

会長および評議員選挙公示

選挙管理委員長 西田 佐知子

日本の植物分類学を発展させようと心新たに集った学会がはじまって、もう 8 年目となりました。早いものです。10 年目という大切な節目を迎え入れる会長・評議員を選ぶ時期がやってきました。学会会則第 12 条及び役員等の選出についての細則に基づき、2009 - 2010 年度の会長・評議員の選挙を下記の通りに行います。学会の舵取り役を選ぶ大事な選挙です。大切な一票をぜひ投じてください。投票締め切りは 2008 年 9 月 30 日（火）です。

なお、会則第 13 条 3 で定められている、役員の大任期間に関する制限が適用される方は以下のとおりです。これらの方には被選挙権はありません。投票されても無効になりますのでご注意ください。

会長の被選挙権なし：邑田 仁

評議員の被選挙権なし：梶田 忠、高宮 正之、出口 博則、西田 佐知子、藤井 伸二、村上 哲明、綿野 泰行

選挙実施細目

1. ニュースレター本号に綴じこまれている選挙人名簿をご覧になり、同封の会長選挙投票用紙（緑色）に会長候補者 1 名を、評議員選挙投票用紙（白色）に評議員候補者 8 名以内を、それぞれ記入してください。
2. 記入後、投票用紙を二つに折り、同封の封筒に入れて郵送してください。封筒には、住所・氏名を必ず記入してください。
3. 封筒が同封されていないか、あるいは紛失した場合には、「会長・評議員選挙投票用紙在中」と朱書きした任意の封筒で郵送してください。なお、投票用紙の再発行はいたしません。
4. 投票締め切り 2008 年 9 月 30 日（火）（当日消印有効）
5. 開票日時・場所 2008 年 10 月 10 日（金）午前 11 時・名古屋大学博物館
会員 2 名以上の立ち会いのもとに開票します。会員は開票に立ち会うことができます。立ち会いを希望される場合は、なるべく選挙管理委員長までご連絡ください。
6. 規程の数を超えて候補者名を書かれた場合、その票自体が無効となります。また、会員以外の候補者名を書かれた場合には、会員以外の部分のみが無効となります。
7. 同姓、あるいはよく似た名前の会員がおられますので、投票にあたっては、ニュースレター本号掲載の選挙人名簿をご参照のうえ、氏名を略さずお書き下さい。

投票用紙送付先・連絡先

〒 464-8601 名古屋市千種区不老町 D4-1(400) 名古屋大学博物館

日本植物分類学会選挙管理委員長 西田佐知子

Tel: 052-789-5764 Fax: 052-789-5896 E-mail: nishida@num.nagoya-u.ac.jp

*上記の郵便番号は任意の封筒で郵送する場合のもので、同封の料金受取人払封筒をご利用の際は、そのままご返送下さい。

諸報告

庶務報告 (2008年5月～2008年7月)

庶務幹事 五百川 裕

庶務報告では学会が交わした契約、転載許可、連絡、行った会議などで、ニュースレターの他の記事で紹介されていないものをお知らせしています。

- ・日本学術会議主催の「新法人法への対応シンポジウム」に参加した(7月29日)。
- ・学術著作権協会の権利委託学協会現況調査に回答した(7月30日)。

お知らせ

第8回(2008年度)日本植物分類学会賞

(学会賞および奨励賞)の受賞候補者の募集

会長 邑田 仁, 学会賞選考委員長 西田 治文

「日本植物分類学会賞」

分類学に関するさまざまな内容の調査及び研究を通して本学会の発展に貢献された会員を顕彰します。

「日本植物分類学会奨励賞」

優れた研究業績をあげた将来有望な研究者(学生を含む)を顕彰します。

以下の要領で受賞候補者を募集致しますので、自薦、他薦を問わず、会員の皆様の積極的な応募・推薦を期待しております。なお、受賞候補者の選考は「学会賞についての細則」に定める学会賞選考委員会で行います。特に、会員資格、年齢規定などにご注意下さい。

募集要領

1. 資格: 学会賞選考規定(下記)を参照ください。
2. 応募方法: 他薦の場合は、推薦する候補者の氏名と推薦理由をお知らせ下さい。必要な資料があれば選考委員会から候補者に提出を依頼します。自薦の場合は、以下の事項をA4用紙に記入して(書式は自由)お送りください。応募は、郵便またはE-mailでお願いします。
3. 記入事項:(自薦の場合)
 - (1) 日本植物分類学会賞, 日本植物分類学会奨励賞のどちらの応募か明記してください。(例: 日本植物分類学会賞応募)
 - (2) 候補者の略歴(生年月日, 学歴, 職歴)
 - (3) 調査・研究業績の概要
 - (4) 業績リスト(著書, 論文, 他)と本学会大会での発表記録(1回分で可)。できれば代表的な業績の別刷またはコピーを添付してください。

4. 書類送付・問い合わせ先:

〒112-8551 文京区春日1-13-27 中央大学理工学部 西田 治文 宛

TEL: 03-3817-1886 FAX: 03-3817-1880

e-mail: helecho@kc.chuo-u.ac.jp

5. 応募締切日：平成 20 年 10 月 30 日（昨年より繰り上げています。ご注意ください）
6. その他：両賞の受賞者は平成 21 年春の日本植物分類学会大会において表彰されます。また原則として同大会において受賞講演を行っていただきます。

学会賞選考規定（抜粋）

第 2 条 「日本植物分類学会賞」は植物分類学および日本植物分類学会の発展に特に顕著な貢献が認められたものに授与する。受賞者の資格は、「日本植物分類学会賞」については 10 年以上継続して本会会員である者とする。

2. 「日本植物分類学会奨励賞」は受賞年の 4 月 1 日において満 38 歳以下で、優れた研究業績をあげた将来有望な研究者（学生を含む）に授与する。受賞者の資格は 3 年以上連続して本会会員であり、主要な研究業績の一部を本会の大会または雑誌に発表している者とする。

第 3 条 受賞者の数は原則として「日本植物分類学会賞」2 名、「日本植物分類学会奨励賞」若干名とし、受賞者には賞状および副賞を授与する。

2008 年度野外研修会のお知らせ

黒沢 高秀（福島大学）

初秋の安達太良山と裏磐梯の植物

期日と日程：2008 年 9 月 5 日（金）～7 日（日）

こちらの手違いでニュースレターの発行から申し込みまでの期間がほとんどなくなってしまいました。誠に申し訳ありません。下記の申し込み方法のようになるべく柔軟に対応致しますが、なるべく早めにお申し込み下さいますようお願い致します。

第 1 日（5 日）福島駅新幹線改札口前に 13:30 に集合し、安達太良山方面へ。安達太良山中腹で植物観察。大玉村にあるフォレストパークあだたら（福島県民の森）着。フォレストパークの植物や裏磐梯の植物に関する講演。フォレストパークのコテージ泊。温泉あり。

フォレストパークあだたら HP: <http://www.fpadatarara.com/>

第 2 日（6 日）フォレストパークで植物観察。午後は裏磐梯へ移動し、秋元湖畔で水生・湿地生植物の観察。新幕川温泉水戸屋泊（懇親会）。ブナ原生林が望める露天風呂あり。

水戸屋 HP: <http://nttbj.itp.ne.jp/0242643316/index.html>

第 3 日（7 日）幕滝遊歩道で植物観察。11:30 福島駅解散。午後は希望者に福島大学共生システム理工学類生物標本室の案内。

今年度の野外研修会は、約 20 年ぶり 3 度目の東北地方開催です（メーリングリストで野外研修会の「北限」としましたが、1983 年度野外研修会が宮城県で行われていました。記事末尾参照）。福島県中部・北部の様々な環境の植物を広く観察したいと思います。2 日目午前中は、植物相をまとめた遠藤史貴氏の案内で、安達太良山中腹に位置するフォレストパークを歩きます。オヤリハグマ、オクモミジハグマ、センダイトウヒレンなど林床植物が観察できると思います。日本海区系と関東区系の境目に位置するため、オオカニコウモリ、タニウツギなど日本海要素とイカリソウ、アケボノスミレなど暖帯要素が同所的に見られます。午後の裏磐梯では、この地域ならではの豊富な水生・湿地生植物を観察します。ミズオトギリ、イヌスギナ、ヒメホタルイ、オオヌマハリイなどに混ざって、イトイバラモ、ヒロハノエビモ、タチモ、エゾノ

ヒルムシロなどの稀産種もここでは豊富に見られます。荷物に余裕がある場合は、長靴の持参をおすすめします。3日目の午前中はブナ自然林の中を散策します。

各自が同定できなくて困っている標本を持ち寄っての鑑定会を考えています。また、「ついでにサンプリングも」とお考えの方に、わかる範囲で福島県内の分布状況や現地での生育状況をお教えしますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

福島大学共生システム理工学類生物標本室には福島県を中心に、データベース化された約2万点の標本が公開されています。研修会前後の標本調査は大歓迎です。

参加費用（福島駅到着から福島駅解散までの宿泊、朝夕の食事、交通費など）：一般 20,000円程度、学生 10,000円程度（手伝ってくれる方、さらに応談）

申し込み：〒960-1296 福島市金谷川1 福島大学共生システム理工学類 黒沢 高秀 宛

TEL: 024-548-8201, FAX: 024-548-3181（事務室ですので、黒沢宛を明記して下さい）

e-mail: kurosawa@sss.fukushima-u.ac.jp

郵便、ファックス、またはメールでお申し込みください。申し込みの際には、氏名、連絡先住所、電話、メールアドレス、福島までの交通手段（電車、自家用車等）、鑑定会用の標本の種類や量、アレルギー（特にソバなど）を明記していただき、なるべく9月2日までに申し込み下さい。大変申し訳ないことに、こちらの手違いでニュースレターの発行から申し込みまでの期間がほとんどなくなってしまいました。9月2日以降も可能な限りギリギリまで対応させていただきますが、なるべく早めにお申し込み下さいますようお願い致します。1泊2日等の参加も相談に応じます。

野外研修会の記録

平成 19（2007）年度 阿哲地域の植物（岡山県）、

2007年5月26日・27日、池田 博（岡山理科大学）

平成 18（2006）年度 種子島の植物（鹿児島県）、

2006年11月18日・19日、邑田 仁（東京大学）・香月 茂樹（薬用植物資源研究センター）

平成 17（2005）年度 岐阜県徳山ダム周辺と伊吹山の植物（岐阜県）、

2005年8月23日～25日、水野 瑞夫（岐阜市、自然学総合研究所）、邑田 仁（東京大学）

平成 16（2004）年度 愛知県、岐阜県の溜め池周囲と湿地の植物（愛知県、岐阜県）、

2004年9月18日～20日、吉田 國二（名古屋市）、須賀 瑛文（岐阜県可児市）

平成 15（2003）年度 ナカガワノギクが咲く溪流とシオギクの咲く海岸の散策（徳島県）、

2003年11月8日・9日、小川 誠（徳島県立博）

平成 14（2002）年度 キバナノツキヌキホトトギス咲く秋の日向路を散策（宮崎県）、

2002年9月27日～29日、南谷 忠志（宮崎市）

平成 13（2001）年度 東京大学農学部秩父演習林（埼玉県）、

2001年7月20日～22日、邑田 仁（東京大学）

平成 12（2000）年度以前の植物分類地理学会時代の野外研修会については、村田 源・2001. 野外研修会をふりかえって. 日本植物分類学会ニュースレター (1): 15-17. を参照。なお、同記事内のニュースレター編集部作成の「これまで行われた野外研修会の一覧」には、以下が追加となります。ご指摘頂いた上野雄規さんに感謝致します。

1983年8月5-7日 宮城県蔵王連峰不忘山及びその山麓

評議員会開催のお知らせ

庶務幹事 五百川 裕

下記の通り評議員会を開催します。評議員、幹事会等の関係各位の出席をお願いいたします。なお、この日は会場の高知大学朝倉キャンパスにおきまして日本植物学会第72回大会が開催されております。

日時：2008年9月26日（金）12時00分～13時00分

会場：高知大学朝倉キャンパス共通教育棟138室

審議事項：学会誌PDFファイル取り扱いなど。

審議事項等についてご意見、ご希望などがございましたら、評議員、会長、幹事、各委員会委員長のいずれかにお伝えください。

植物分類学関連学会連絡会共催シンポジウム

「2007年植物レッドリストからみえる保全生物学的課題」のご案内

藤井 伸二（人間環境大学）

植物分類学関連学会連絡会は、植物学会大会において共催シンポジウムを開催しています。2008年度は高知大学において下記のシンポジウムを開催する予定です。ぜひご参加下さい。

開催趣旨：2007年の夏に環境省のレッドリストが改訂されました。維管束植物の分野ではCR種を中心に定量データに基づく見直しがなされ、新たな追加種の検討も行われました。その結果、以前のランクから評価が下がったものがある一方で、ランクの上がったものや新たにランクインしたものなど、かなりの変更がなされています。約10年前に行った調査と比較すると、調査精度の向上や評価手法の改良が行われ、それらによるシミュレーション解析の信頼性は高くなりました。しかし、一方で情報を収集できなかった分類群（情報不足種）は決して少なくないのも実情です。このシンポジウムでは、10年前と比較して日本の絶滅危惧植物の現状はどこまで明らかになったのか、この10年間で絶滅危惧植物に起こった変化は何か、今回の解析結果は具体的保全にどのような指針を与えてくれるのか、そして保全生物学を支える基盤としての絶滅危惧種調査やレッドリスト作成には何が求められているかを考えてみたいと思います。

日時：9月25日 9時00分～12時00分

（日本植物学会第72回大会の一般シンポジウムとして開催）

場所：高知大学朝倉キャンパス（高知市曙町2-5-1）

交通案内：<http://www.kochi-u.ac.jp/JA/m/acc.html>

キャンパスマップ：<http://www.kochi-u.ac.jp/JA/m/c-asakura.html>

プログラム

オーガナイザー 藤井 伸二（人間環境大学）

1. 日本の絶滅危惧植物1697種の絶滅リスク評価 ～10年間の個体群変遷・過去と未来の絶滅率の比較・保護区設定方法の検討～ 藤田 卓（自然保護協会）他
2. 2007年植物レッドリストで用いた絶滅リスク評価シミュレーション手法 宗田 一男（Z会）
3. 保全生態学からみたレッドリスト評価の問題点 西廣 淳（東京大学農学生命科学研究科）
4. 沖縄県の絶滅危惧植物の現状と課題 横田 昌嗣（琉球大学理学部海洋自然科学科）
5. レッドリストへの期待と信頼性のジレンマ 藤井 伸二（人間環境大学人間環境学部）
6. 総合討論

日本分類学会連合の企画によるシンポジウムのご案内

日本分類学会連合担当委員 菅原 敬

日本分類学会連合は、日本生物教育学会との共催でシンポジウムを開催します。会員みなさまのご参加をお待ちしています。

日時：平成 20 年 9 月 20 日（土） 13：00（受付開始：12：00）

場所：仙台市 東北大学 片平さくらホール

講演会名：最近の植物科学の進歩 ―植物とは？あらためて考えて見よう

プログラム：

13：00 はじめに

挨拶 和田 正三（日本植物学会）

企画説明 原 慶明（日本分類学連合）

13：10 植物とは？ Whittaker の 5 界説以降の大系統

原 慶明（山形大・理・生物）

14：10 休憩

14：15 生物世界における植物の位置，その広義の理解

稲垣 祐司（筑波大・院，准教授）

15：15 休憩

15：20 生物世界における植物の位置，その狭義の理解

野崎 久義（東京大・院・准教授）

16：20 休憩

16：30 教員免許更新受講者の確認試験（17 時終了予定）

東北大学 片平さくらホールについては、

住所：〒 980-8577 仙台市青葉区片平二丁目 1 番 1 号

<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/sakura/newpage1.html> を参照してください。

2008 年度日本植物分類学会講演会のお知らせ

講演会担当委員 布施 静香

平成 20 年度の日本植物分類学会講演会は、大阪学院大学の林一彦先生に会場をお世話頂いて、次のとおり開催いたします。演題など詳細につきましては次号のニュースレター（No.31）でご案内いたします。

【日時】2008 年 12 月 13 日（土）午前 10 時～午後 4 時 40 分

【講演会場】大阪学院大学 2 号館地下 1 階 2 号教室（O2-B1-02 教室）

〒 564-8511 大阪府吹田市岸辺南 2 丁目 36 番 1 号（電話：06-6381-8434）

【会場までのアクセス】

JR 東海道本線岸辺駅，阪急京都線正雀駅から大阪学院大学までともに徒歩 5 分。

http://www.osaka-gu.ac.jp/campus/cl_frame/index.html

【予定講演者（五十音順）】

岡田 博・角野 康郎・高相 徳志郎・永益 英敏・福原 達人

日本植物分類学会第 8 会大会 (2009 年) のお知らせ

米倉 浩司 (東北大学)

日本植物分類学会第 8 会大会は次の通り開催する予定です。なお、大会の詳細および参加申し込み等のご案内は、次号のニュースレター (11 月号) でお知らせいたします。

1. 会場

宮城県民会館 (東京エレクトロンホール宮城)

宮城県仙台市青葉区国分町 3 丁目 3-7

6 階 601 会議室 (口頭発表), 5 階 501 展示室 (ポスター発表)

ホテル仙台プラザ (懇親会)

宮城県仙台市本町 2 丁目 20-1

2. 日程

3 月 12 日 (木) 夕方 編集委員会, 評議員会 (13 日夜に変更の可能性あり)

3 月 13 日 (金) 午前 口頭発表

午後 ポスター発表, 口頭発表

3 月 14 日 (土) 午前 口頭発表

午後 総会, 記念講演, 懇親会

3 月 15 日 (日) 午前 口頭発表

午後 公開シンポジウム [仮題]「東北地方の植物相の成り立ち」

大会に関する連絡先

〒980-0862 宮城県仙台市青葉区川内 12-2

東北大学植物園 鈴木 三男

TEL: 022-795-6788 e-mail: mitsuos@mail.tains.tohoku.ac.jp

(大会専用のメールアドレスは、次号のニュースレターでお知らせします。)

第 9 回大会開催地の募集

庶務幹事 五百川 裕

日本植物分類学会第 9 回大会 (2010 年) の開催地を募集いたします。大会開催にあたっては、講演会場 (約 150 名収容可能な広さ)、クローク、本部、休憩室、ポスター発表会場等のスペースが必要となります。また、大会中に評議員会等の会議室をお借りすることになります。大会前の準備としては、大会案内と大会申込書の作成、プログラム編成、要旨集の編集・発行、懇親会会場の選定などがあります (大会準備に関するマニュアルが代々の大会準備委員会により引き継がれています)。大会運営は学会からの補助金 (10 万円) と参加費で行っていただきます。大会開催をお引き受け下さる (あるいは場合によっては引き受けても良い) という会員の方がおられましたら、2008 年 10 月 20 日までに庶務幹事宛 (下記) にご連絡をお願いいたします。ご参考までに、これまでの大会開催地 (旧学会大会を含む) は学会ホームページ (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/cgi-bin/jsps/wiki/wiki.cgi>) の「過去の大会プログラム」でご覧になることができます。

〒943-8512 上越市山屋敷町 1

上越教育大学学校教育学部内

日本植物分類学会事務局 (庶務幹事 五百川 裕)

TEL & FAX : 025-521-3430 e-mail : jimur@e-jsps.com

研究費助成公募等のお知らせ

庶務幹事 五百川 裕

下記の公募案内が事務局に届きました。詳細につきましては、各問い合わせ先に資料を請求されるか、ホームページをご覧ください。

・第15回生態学琵琶湖賞

実施主体：日本生態学会（昨年度まで滋賀県主催）

対象：生態学を中心にその周辺領域を含めた分野において、水環境またはこれに関連する研究

募集期間：平成20年7月15日～10月15日

問い合わせ先：〒603-8148 京都市北区小山西花池町1-8

日本生態学会事務局

Tel & Fax：075-384-0250, E-mail：office@mail.esj.ne.jp

募集詳細ホームページ：http://www.esj.ne.jp/esj/biwako/annai.htm

・平成20年度福武学術文化振興財団歴史学・地理学助成

対象：歴史学・地理学、および地理学、歴史学の融合された研究分野など

応募期間：平成20年8月20日～9月20日

問い合わせ先：〒206-8686 東京都多摩市落合1-34

財団法人 福武学術文化振興財団事務局

電話：042-356-0810, ホームページ：http://www.fukutake.or.jp

・平成20年度福武学術文化振興財団次世代歴史・地理教育支援助成

対象：歴史・地理、およびその融合された分野でのユニークな教育実践、振興、普及など

応募期間：平成20年8月20日～9月20日

問い合わせ先：財団法人福武学術文化振興財団事務局（住所等は上記と同じ）

・平成20年度福武学術文化振興財団瀬戸内海文化研究・活動支援助成

対象：瀬戸内海地域の「文化力」を持続的・発展的に高めるための、人文・社会・自然諸科学に関する調査・研究、およびそれらの融合された分野に対する調査・研究など

応募期間：平成20年8月1日～9月30日

問い合わせ先：財団法人福武学術文化振興財団事務局（住所等は上記と同じ）

書評依頼図書

庶務幹事 五百川 裕

下記図書の書評依頼が学会にまいりました。書評の執筆を希望される方は学会事務局まで電子メール（jimu@e-jsps.com）、またはハガキ等でご連絡ください。執筆者には当該図書を差し上げます。

1. 中村一雄 撮影・著（2008）「花かおる野反湖」108pp. ほおずき書籍. 1,000円（税別）.
2. 出川通 著（2008）「理科少年が仕事を変える, 会社を救う」191pp. 彩流社. 1,500円（税別）.

ニュースレターへの情報提供、寄稿大歓迎です。ご連絡は下記まで。

東 隆行 〒060-0003 札幌市中央区北3条西8 北海道大学植物園

TEL: 011-221-0066 FAX: 011-221-0664 e-mail: azuma@fsc.hokudai.ac.jp

本の紹介

千葉県立中央博物館編

「リンネと博物学—自然誌科学の源流—（増補改訂）」

千葉県立中央博物館が、昨年（2007年）のカール・フォン・リンネ生誕300年を記念し実施した事業（記念展、記念講演会等含む）による出版物である。同館は、収集したリンネコレクションの一般公開のため1994年に特別展「リンネと博物学—自然誌科学の源流—」を開催し、その展示解説書として同名の図録を出版し、1996年に改訂2刷を同館友の会より出版したが、その後、絶版となっていた。今回の増補改訂版は、前版には無かった5項目（下記目次中の*）を追加し、他の項目も資料図版をカラー化するなど大幅に差し替えを行い、全体の文字も大きくして、見やすく美しく再編集されている。特に、リンネが動物、植物、鉱物の三界の分類体系をまとめて発表した「自然の体系 (Systema Naturae)」の初版をカラー大図版で新たに追加掲載し、前版で作成された日本語訳と対比して見れるよう編集してあるのが、貴重かつ有用である。文一総合出版 (http://www.bun-ichi.co.jp/hotnews_frame.html) から定価15,750円で販売されている。目次は以下の通りである。

<目次>

○リンネ生誕300年記念行事天皇陛下基調講演

Linné and Taxonomy in Japan [Akihito] *

リンネと日本の分類学 [明仁] *

○リンネのしごと1

自然の体系（初版）（図版追加） [訳 / 遠藤 泰彦・駒井 智幸・高橋 直樹・宮田 昌彦]

○リンネのしごと2

リンネの著作・関連文献

○リンネコレクションから

リンネ：クリフォーフォド庭園のバナナ他

リンネと関係者のメダル [大場 達之]

○自然誌科学の源流リンネ

最高のナチュラルリスト，リンネ [木村 陽二郎]

分類学の黎明期における生物分類と種概念 [直海 俊一郎]

植物分類学の始祖としてのリンネと種名のタイプ [大場 秀章]

植物と動物の学名について [天野 誠]

リンネと医学 [梶田 昭]

リンネと生態学 [沼田 眞]

リンネと昆虫学 [小西 正泰]

リンネと鳥類学 [桑原 和之・茂田 良光]

リンネと藻類学 [宮田 昌彦] *

リネーとロシアの博物学者 [小原 敬]

リンネゆかりの旧クリフォート邸を訪ねる [大場 秀章] *（他書再掲載）

ロンドン・リネアン・ソサエティー：その歴史と現状 [大場 秀章]

ロンドン・リネアン・ソサエティー訪問記 [林 浩二]

○資料

リンネ関係年表 [大場 達之]

リンネの学位・口述論文と『学問の楽しみ』 [大場 達之] *

コラム

ウプサラにあるリンネゆかりの地
 基準標本の種類について [天野 誠]
 リンネソウ [天野 誠]

(五百川 裕)

いきもの便り

結局、「チャワンタケです」

細矢 剛 (国立科学博物館)

自分の研究テーマとしている生物群は何かと聞かれた場合、筆者は「チャワンタケです」と答えることが多い。「チャワンタケ」ならば、菌類やきのこを少し聞きかじったことがある人ならば聞いたことがあるか、見たことがあるし、見たことがない人でもきっと「茶碗」型しているのだろう、ということ容易に想像できるからである(もっとも、「竹」の仲間と思われたことがかつて1度だけあったが)。

チャワンタケといっても、筆者がテーマにしているのはちょっと違う。分類学的にはビョウタケ目といって、多くの場合、直径1mm前後の皿型の構造を柄(ないこともある)の上に持つ微小なきのこである。相手が微小なことから、ずいぶん気をつけて探さなくてはならない。材や葉を一つ一つとりあげて、それこそ眼を皿のようにして探し、ルーペで確認する。ビニールシートを広げ、四つんばいか腹ばいで「ほふく前進」するのが採集スタイルとなっている。端から見たら「コンタクトレンズでも落としたんですか」と思われるかもしれない。もちろん、移動のスピードも植物採集のそれに比べたら、桁が違う。きのこ採集の仲間と一緒に採集に行けば、山の入り口だけで終わったなんてこともしばしばある。ところが、この方法で徹底して探すと、結構いろいろなものが採れるのである。研究者が少ないだけに、日本新産などはしばしばだし、新種や新属などあるのだ。もっともそれ以上に多いのが「同定保留・未同定」だが。

先日、東大の研究者から、構内の心字池

(三四郎池)での調査を依頼された。付近を開発しようという案があるとかで、その保全を図るうえでも、生物相を調べる必要がある、というわけである。この際もおもしろいものが採れた。*Strossmayeria* という直径0.5mmにも足りない子囊盤を形成する菌である。日本では、まだ数回しか採集されていない。この菌の胞子を1個だけとって、寒天培地で培養すると、黒色のカビが現れた。このカビは *Pseudospiropes* というものだ。つまり、*Pseudospiropes* と *Strossmayeria* は、生物学的には同一なのだ。このことが分かったのは1982年のことだが、*Strossmayeria* のどの種が *Pseudospiropes* のどの種に当たるのか、ということについてはまだ研究が必要なものなのだ。比較的身近なところからも、まだまだ研究がなされていない材料が採れることを示すエピソードであろう。そんなわけで、また今シーズンも、ダニに食われ、ウルシにかぶれながら、ほふく前進を進めることになるろう。



タケに発生した *Strossmayeria* sp. 直径は0.2mm程度である。(撮影：細矢 剛)

フィールドワーク万歳！

藤川 和美（高知県立牧野植物園）

フィールドワークに目覚めたのは、ネパール国で海外青年協力隊（JOCV）として活動した経験から。ここで出会った奇妙な植物「ワタゲトウヒレン」に一目惚れし、それからは、出産、子育て期間の休止期を除くほぼ毎年、娘からは「また出稼ぎ？」と聞かれても反論できず、フィールドワークを続けています。

ワタゲトウヒレンとその仲間たちは、キク科トウヒレン属の植物で、これまで18種（*Eriocoryne* 節のみ）が報告され、中央アジア～ヒマラヤ、中国北西部の4,000mを超える高山帯～亜氷雪帯に分布します。植物体を覆う綿毛と頭状花序が茎の先端に密集して付くという特徴をもち、その様子がセーターを着ている様に見えることから、セーター植物と呼ばれることもあります。押し葉標本にすると姿形が全く別ものになってしまい、これまでに収集されている標本が少ないなど、分類学の基本ですが、ともかくも材料集めが研究の出発点です。ところが、森林限界を超える4,000mまでの道のりは遠い。高山病のためテントで寝込むことも、山ビルに襲撃されることもしばしばありました。それでもやはり道中の草花の面白さ、知った顔なのに何かが違うそんな異国の植物たちに出会うわけで、フィールドワークにのめり込みました。

そして、その醍醐味とジェネラルコレクションの必要性を教えてくれたのは、ハーバード大学アーノルド標本館ビュフォード（D. E. Boufford）博士です。今年はチベット暴動と四川大地震とにより調査が中止となりましたが、これまで米国—中国共同プロジェクト「中国ホットスポット多様性研究」（米国科学財団助成；研究代表 D. E. Boufford）に参加する機会を2回ほど得ましたので、皆さんに調査隊活動についてご紹介したいと思います。

調査期間は2ヶ月。今時の海外調査として

は長い。どんなところでも歩き、どんな植物も逃さない。朝から晩まで陽のある時間帯とにかく採集、その場で押し直しが不要ない位にきちんと新聞紙に挟んだ（重複標本10セット）押し葉と写真の撮影、DNAサンプル収集、黙々と手際よく、生態情報は頭の中へたたき込み、野帳には記録しない。そしてその日のうちに総てデータベースへの入力と深夜まで続きます。このデータベース作業では調査隊員が集まり、採集した標本の habit, habitat 等のそれぞれ情報を入力し、標本番号を付けていきます。この時にビュフォード博士がほぼ総ての種の属名まで、あるいは種名まで入力します。勿論、入力する時に属名や種名を言ってくれますから、学生達をはじめ我々は植物名を覚えることが出来るのです。調査が終了した時点で、プロジェクトのウェブサイトを更新します。詳細な調査地域ルート、GPS データ、生態写真、DNA サンプル収集の有無から、同定結果は随時更新です。即効性と公共性。また、そこに暮らす人と文化など、何事にもアンテナを張る姿勢を学びました。

是非一度、中国横断山脈多様性研究のウェブサイト <http://hengduan.huh.harvard.edu/fieldnotes> をご覧下さい。標本の情報やDNAサンプルの有無など、それらを皆さんの研究に活用して頂ければと思います。



Saussurea medusa Maxim. 藤川 和美撮影。2005年8月四川省にて